

## 技術委員会と審判委員会の協調事業

中国サッカー協会では、技術委員会と審判委員会の協調として、中国トレセンリーグを活用し、試合後に意見交換を行う事業を試行的に開始しました。

この事業は、技術委員会と審判委員会が相互の理解を深め、中国地域のサッカーを取り巻く環境を、より良いものに整えていくことを目的としています。

意見交換には、マッチコミッショナー、チーム代表（主に監督）、審判員、審判アセッサー、ウェルフェアオフィサーが出席し、建設的な意見交換を活発に行うこととしています。

6月27日（日）どらドラパーク米子球技場で開催された、トレセンリーグ鳥取県代表 vs 島根県代表（男女とも）で、この事業が試行的にスタートし、上野敏夫技術委員長、前田拓哉審判副委員長が視察されました。



試合前ラインナップの様子





◆意見交換の主な内容は次のとおりでした。

- ・空中の競り合いにおけるファウルの判定の難しさについて
- ・小さなファウルでも受けた側が不利にならないような判定について
- ・審判が動きすぎることによってプレーの邪魔になることがあること
- ・判定に対するベンチのリアクションで受け入れられるもの、そうでないものの違い
- ・ベンチスタッフが協力することで、交代の手続きがスムーズになること
- ・選手の熱中症対策について



意見交換の様子

審判アセッサーの内田利幸氏（鳥取県）が進行役を務め、約 20 分間の活発な意見交換が行われました。また、ウェルフェアオフィサーを担当した大畑開氏（JFA トレセンコーチ）がファシリテーター的な役割でコメントされ、この事業のあり方について説明されスムーズな進行となりました。

今後も機会をとらえて、チームと審判員が相互に理解できるよう、内容を検討しながら事業を展開していきたいと思えます。

御協力いただきましたチームの皆さま、審判の皆さま、ありがとうございました。

2021年7月1日

中国サッカー協会  
技術委員会・審判委員会